

2019年(令和元年) 手足口病の流行状況（長野県）

2019年(令和元年)8月7日
 長野県健康福祉部保健・疾病対策課

1 手足口病とは

手足口病は、口腔粘膜および手や足などに現れる水疱性の発疹を主症状とし、乳幼児を中心として夏期に流行する、エンテロウイルスを主要原因としたいわゆる夏かぜの代表疾患です。

基本的には数日のうちに治癒する予後良好の疾患ですが、稀に髄膜炎、小脳失調症、脳炎などの中枢神経系の合併症などを呈することがあります。主な感染経路は飛沫感染、接触感染です。

2 今年の患者発生推移

手足口病の届出数は近年、隔年で流行する傾向を示しており、最近では2015年及び2017年に流行しました(図1)。

今年7月上旬から急激に増加し初め、第28週(7/8-14)に1医療機関当たりの届出数が5.33人となり国立感染症研究所の定める警報レベル(同5人)を超えました。最新の第31週(7/29-8/4)に21.04人となり、これまで最大値であった2015年32週の17.20人を超え、1999年の感染症法に基づく調査を開始して以降最大となりました(図2)。今後もしばらくの間は、大きな流行の継続が懸念されます。

全国でも、過去20年で最も多い状況となっています。西日本から流行が始まり、直近では関東、東北等を中心に増加しています。

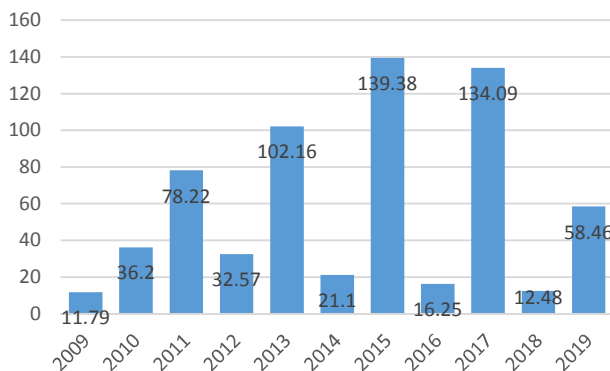


図1 手足口病年別定点当たり累計

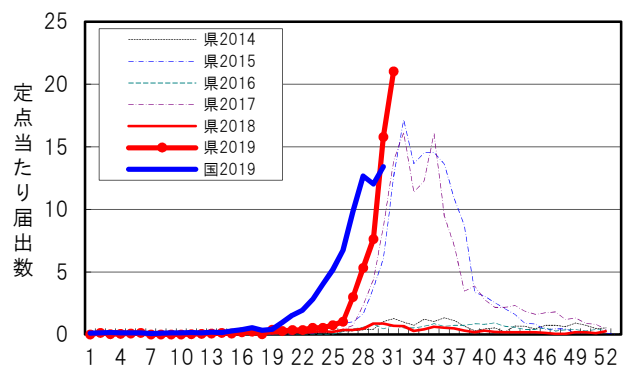


図2 手足口病週別届出数

** 感染予防のポイント! **

- ★ 石けんと流水による手洗いをしっかりと行いましょう。
- ★ 集団生活ではタオルの共用は避けましょう。
- ★ おむつの交換などは、排泄物を適切に処理し、しっかりと手洗いをしましょう。
- ★ 体力が低下しないよう、十分な休養と栄養補給を心がけましょう。
- ★ 脱水症状にならないよう、水分をしっかりと取りましょう。

*厚生労働省 HP「手足口病に関するQ&A」

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/hfmd.html>